

### 3. 学習上の悩み

悩みのトップ・スリーは、①「上手な勉強の仕方がわからない」64.2%、②「どうしても好きになれない科目がある」61.0%、③「こつこつと努力できないで困る」60.5%である。第1回調査以降、「わかりやすい授業にしてほしい」(第1回34.3% 第2回45.2% 第3回50.5%)と「どうしても好きになれない科目がある」(56.5% 58.8% 61.0%)が増加し、「勉強する科目を自分でもっと選択できるといい」(39.1% 40.3% 31.4%)、「先生は成績にこだわりすぎる」(27.5% 26.6% 14.1%)、「親の期待が大きすぎる」(20.2% 16.1% 12.3%)が減少をみた。後二者は、いずれも成績の向上や学習に対する、親や教師からのプレッシャーの低下を反映したものと考えられる。



あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

高校生は、学習上どのような悩みを抱えているのだろうか。高校生の半数程度以上が「そう思うことがある」と答えたのは、以下の7項目である。

①「上手な勉強の仕方がわからない」64.2%、②「どうしても好きになれない科目がある」61.0%、③「こつこつと努力できないで困る」60.5%、④「覚えなければいけないことが多すぎる」55.8%、⑤「どうしてもこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」55.5%、⑥「わかりやすい授業にしてほしい」50.5%、⑦「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」49.6%。

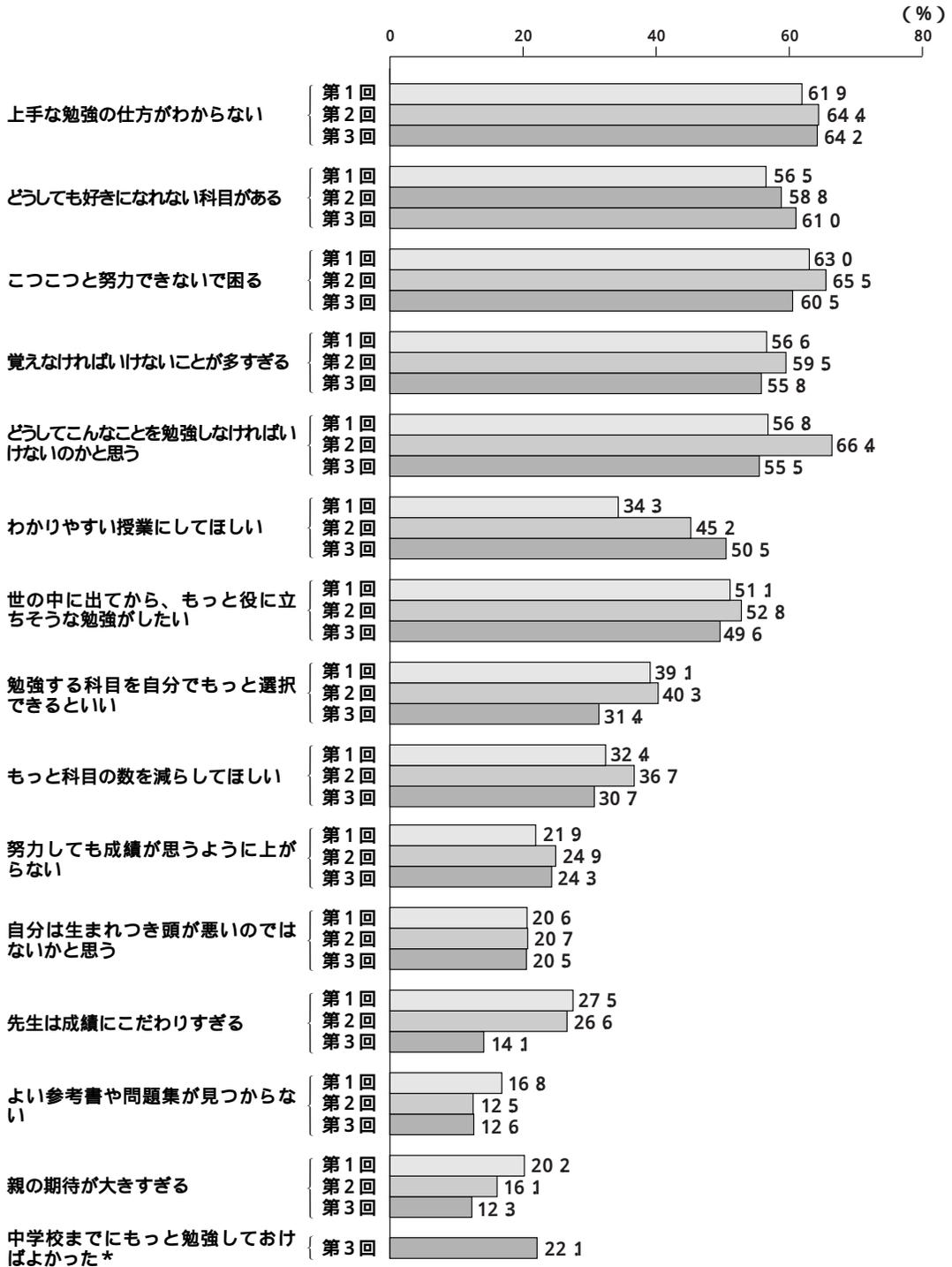
学習をめぐる悩みや不満は、こつこつ努力できない自分に対して向けられており、さらに上手な勉強の仕方を手に入れたいという欲求が強い。わかりやすい授業を望む声も大き

い。この結果は、成績を向上させるのに大切な要因(努力主義、効率的な勉強方法—技術主義、p66~70参照)と符合している。成績を向上させるために必要だと考えている要素、手段が自分に欠けていることが大きな悩みなのである。

「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」と「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」という回答には、学習内容や、勉強という行為そのものに対する疑義、不満が端的に現れているといっていよう。必ずしも社会生活に直接役立つ学習が重要だとはいえないにせよ、課せられた学習内容の意義を自分なりに咀嚼できない高校生の苛立ちが現れている。

「中学校までにもっと勉強しておけばよかった」は22.1%である(図1-2-12)。

図1-2-12 学習上の悩み(時系列)



注1) 複数回答。

注2) \*は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2005人、第2回2615人、第3回3808人。

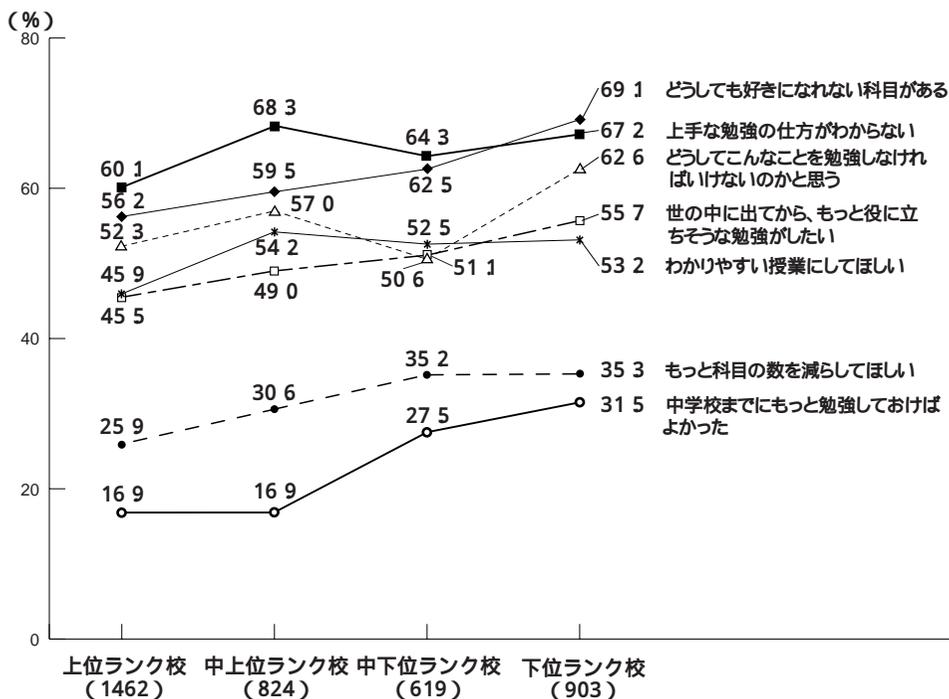
時系列的にみて、増加傾向を示しているのは、①「わかりやすい授業にしてほしい」(第1回34.3% 第2回45.2% 第3回50.5%)と②「どうしても好きになれない科目がある」(56.5% 58.8% 61.0%)の2項目である。学習上の悩みの源泉が、自分ではなく授業や教師、知識体系としての科目に向けられる傾向が強まった。

逆に、減少を示したのは、以下である。①「勉強する科目を自分でもっと選択できる」といい」(39.1% 40.3% 31.4%)、②「先生は成績にこだわりすぎる」(27.5% 26.6% 14.1%)、③「親の期待が大きすぎる」(20.2% 16.1% 12.3%)。

後二者は、いずれも成績の向上や学習への親や教師からのプレッシャーの低下を反映したものと考えられる。

学校ランク別にみると(図1-2-13)、図にあげた項目で、下位ランク校の高校生ほど悩みを訴えることが多くなっている。「どうしてもこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」「どうしても好きになれない科目がある」「もっと科目の数を減らしてほしい」「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」という不満を抱える一方で、「中学校までにもっと勉強しておけばよかった」と後悔している。下位ランク校の生徒ほど、そうした悩みは深い。

図1-2-13 学習上の悩み(学校ランク別)



注1) 複数回答。

注2) ( )内はサンプル数。